

2021年度活動概要

ライティング研究会

2021年度もコロナ禍の中で、オンライン授業がスタートを切ったが、徐々に対面へ移行することが可能となった時期がある。そのまま、コロナ禍が終息するかな、と思われる時期もあったが、オミクロン株という変異株が出現し、その感染力の強さに圧倒されたのが後半であった。そのため、授業と研究会も非常に変則的な対応を迫られた。

研究会は合計で5回しか行われなかったが、そのうちオンライン研究会が4回、対面が1回である。8月26日と9月11日はオンライン研究会。そして参加者は各研究会とも2人だった。8月の研究会では「ライティング指導」の中で、翻訳機の使用が剽窃に抵触するのではないか、という点で問題視された。またコロナ禍で「海外留学」が実質的に不可能な状態が続く中で、ネイティブ・スピーカーの授業の人気の上昇したという報告を受けた。また、この会員に「能楽堂」のブース案内文の翻訳の依頼があったという。会員には「ライティング」の実践は大いに勧めたい。9月には、授業そのものはTOEIC対応だが、The Japan Times のアルファという新聞記事を利用して5分ほど「ライティング指導」を盛り込んだという報告を受けた。中心は英文記事の要約だが、そこに自分の意見も加えられる場合もあり、その意見に対し、教師と学生の間で「対話」が生まれているとの報告がされた。11月27日に唯一、対面研究会が行われた。会員の一人は、ヴィゴツキーの研究をもとに「思考力を高める」、「読む側の負担を軽減する工夫」をするライティング指導の在り方を模索している。また他の会員は研究が順調に進み、自分が今在籍している博士課程で「博士論文」を書く資格が与えられたことが紹介された。さらに、オンライン授業によるライティング指導の一例が紹介され、これ（「テーマ型内容中心教授法のライティング使用語彙幅の効果について」）を中部支部の春季研究例会で発表することになった。またもう一人の会員は、ライティングそのものの実践例として自分の大学の論集に投稿した論文をもとに「道義的正義と政治的得策のレトリックアヘン戦争をめぐる英国議会のグラッドストーンとパーマストンを中心にー」という発表を同研究例会で行うことになった。そして、3月5日に予定されていた春季定例研究会での発表を成功させるために、2月21日と22日の午後30分程度を使い、オンライン研究会（発表の予行演習）が行われた。発表時間は短かったが、発表を聞いた参加者から発表後メールでそれぞれの発表者に適切なコメントや助言がなされた。